



チヤパクア

一九六六年ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞受賞

Japan

winkler film presents
a film by conrad rooks

starring
jean louis barrault
conrad rooks
william s. burroughs

allen ginsberg
ravi shankar
ornette coleman

photography by
robert frank

music by
ravi shankar
the fugs
philip glass

果てしなく広がる路を行く。
ビートニクの魂は、

ビートニクの奇跡

ウィリアム・バロуз
 アレン・ギンズバーク
 ジャン＝ルイ・バロー
 ラヴィ・シャンカール
 オーネット・コールマン
 ロバート・フランク
 フィリップ・グラス
 マン・レイ
 オルダス・ハックスリー
 コンラッド・ルークス

◆制作・監督・脚本、そして主人公ラッセル・ハーウィックを鮮やかに演じたコンラッド・ルークスは、この『チャパクア』で1966年ヴァネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞し、72年、ヘルマン・ヘッセ原作の『シッダールタ』を発表後、突如、姿を消してしまった。そのため長い間、この作品は封印された映画となっていた。
 ◆ルークスは、1959年にバロウズに出会い、親交を深め、カット・アップ、フォールド・インなど色々な手法を伝授される。ビートニク精神と60年代当時のファッション、空気をヴィヴィッドに伝える『チャパクア』は、バロウズの文章の手法を明らかに映画で表現することに成功した唯一無二のビート・ムービーだ!



ドラッグとアルコール中毒を克服しようとする主人公が、サナトリウムで経験する世界を凝りに撮った映像で描いた『チャパクア』は、コンラッド・ルークスの実体験にもとづいた初監督作品だ。処女作とはいえ、複雑にミキシングされたサウンドトラックと、目の眩むような各ショットの完成度の高さには驚かされる。まるで美術品を眺めているような錯覚に陥ってしまうほどシュールな作品だ。

私がコンラッド・ルークスに会ったのは、96年の秋のことだった。四半世紀の間、隠遁生活を送り、人並みならぬドラッグ遍歴を持つ謎に包まれた人物だと聞いていた。しかし、4時間半にも及ぶインタビュー、というより、通訳のいない身振り手振りを交えての会話のなかで、彼は、“ビート”に初めて触れたいきさつ、60年代のグリニッジ・ヴィレッジの様子、そこで知り合った仲間達の素晴らしさ、そして、輪廻転生についてなどを、文学的な美しい英語で語ってくれた。まるで、その時代にタイム・トリップしたような貴重なひとときだった。

この作品に集結したアーティストの多彩さには目を見張るものがある。アドバイザーにはシュルレアリスムのマン・レイとオルダス・ハックスリー、撮影を担当したのはスウェーデン出身のロバート・フランク、フリッツ・ラングの『メトロポリス』の特殊撮影を担当したオイゲン・シュフタンもカメラマンとして参加している。出演者にはルークスの他、サナトリウムの医師に「天井模様の人々」のジャン＝ルイ・バロー。そして、今は亡きウィリアム・S・バロウズとアレン・ギンズバークが、それぞれ阿片のジョーンズ、メシアを個人的に演じている。他にオーネット・コールマンもちらりと姿を見せている。最も触発された映画は、ドラッグ(阿片)仲間でもあったジャン・コクトー作品だと言い、多くのビートニクや芸術家たちと交流を持っていたルークスならではの顔ぶれだ。その審美眼も生きている。冒頭で激しいビートをきかしているのはインドの打楽器タブラ。音楽には、当時はまだ全くの無名だったラヴィ・シャンカールを起用している。ラヴィとルークスは、グリニッジ・ヴィレッジの路上で偶然知り合い、映画音楽という初めての経験に、譜面の読めないラヴィはスクリーンを見ながら即興で光り輝くような演奏をしたのだという。他に、当時過激な歌でロックシーンを挑発したファックスが登場する他、フィリップ・グラスが音楽アドバイザーとして参加している。オーネット・コールマンもこの映画のためにサウンドトラックを創ったが、ある理由で実際には使われなかった。そのサウンドトラックがジャズ史に輝く『チャパクア組曲』だ。

完全な自主制作のスタイルで作られ、ヨーロッパの優れたスタッフを起用した『チャパクア』は、公開の後、アメリカ映画界のメインストリームに大きな影響を及ぼした。ルークスに共鳴したピーター・フォンダは後に名作『イージーライダー』を製作した。ロジャー・コマンもジャック・ニコルソン脚本の『白昼の幻想』を撮っている。また、当時写真家として高名だったロバート・フランクは、以後、映画界でも活躍するようになった。タイトルの『チャパクア』とは、先住民であるアメリカン・インディアンの言葉で“流れる水の源”という意味なのだという。アメリカン・インディアンの哀愁を帯びた叫声で幕を開けるこの映画は、体制に反発し自然を崇拜していった“ビート・ジェネレーション”のただなかを走り抜けたルークスの、痛烈なアメリカ文明批判でもあるのだ。

しかし、「楽しくなければアートではない」というルークスの言葉通り『チャパクア』の上映中、劇場では終始笑い声が絶えなかったことをつけ加えておきたい。

『チャパクア』 =ビートニクの痛烈なアメリカ文明批判 山田やよい yayoi yamada



5月22日(土)より独占ロードショー!

特別鑑賞券1,400円絶対発売中(当日一般/1,700円の他)
 劇場窓口及び都内プレイガイド、チケットぴあ、チケットセゾンにてお求め下さい。
 当劇場窓口でお買い求めの方にはもちろんオリジナル・ポストカードをプレゼント!

下記の日以外は9:45PMより1回上映(11:10PM終了予定)		
6/4(金)	5:15	7:15
6/13(日、27日)	5:15	7:15
※日曜日は休演です。		

俳優座トニーナイト
 六本木・俳優座劇場内 tel.03-3401-4073